



野田中だより

【学校教育目標】

志高く、学び考え実践する生徒
心豊かで、認め合い高め合う生徒
心身を鍛え、命を慈しむ生徒

『ほめて 認めて 励まし続ける』 川越市立野田中学校 令和8年8月31日 校長 澤村文香

39日間に及び夏季休業が終了し2学期がスタートしました。終業式での約束「事故やトラブルに巻き込まれることなく、8月31日、また元気に会いましょう」という約束が叶い、こうして2学期を迎えることができましたのも、保護者や地域の皆様方の温かなご協力・ご支援のおかげです。ありがとうございました。2学期もよろしくお願いいたします。

みんなが「いい顔」で過ごせる野田中学校に… ～2学期始業式 校長講話から～

夏休みに入って間もない7月28日(火)16時27分、熊本県でマグニチュード7.1、最大震度7の大きな地震が発生しました。ご家族やご親戚、ご友人が被災された人もいるかもしれません。心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。1学期の避難訓練の際、地震などの災害はいつ起こるかわからないからこそ、日ごろから備えなければならないというお話をしました。備えとは地震が来た時を想定しての準備ですが、もう一つ忘れてはならないことがあります。

第108回全国高等学校野球選手権大会の開会式、西東京代表 八王子実践高等学校 矢沢陵磨主将の選手宣誓(抜粋)です。「自然は、何度も何度も大きな試練を与えてきます。」「今、野球ができるのは決してあたり前のことではない。」「という熊本地震を念頭に置いた言葉の後に、「だからこそ高校球児はいい顔をして野球をしよう」と続けました。

5月に「より良い学校を創るのは、私たち一人ひとりです」という話をしました。この「より良い学校を創る」と、矢沢主将が宣誓した「いい顔をして野球をしよう」には、通じるものがあると私は思いました。

「いい顔をして」。皆さんは、どんな顔を想像しますか？

2学期のスタートに当たり、野田中の皆さんが「いい顔」をして学校生活を過ごせるように、そして皆さんに「より良い野田中学校」を創っていただくために、ここで改めて「いじめ」について確認をしたいと思います。

皆さんは、この野田中学校にいじめはあると思いますか？ 私は、この野田中に限らず、いじめはどこにでも起こりうると考えています。なぜなら、いじめ防止対策推進法において、「いじめ」とは、「児童生徒等に対して、当該児童等が在籍する学校等に在籍しているなど、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」とされています。すなわち、相手が嫌だと思ったら、それはいじめなのです。このいじめの定義は、かなり幅の広いものとなっていますが、それは「いじめで苦しむ子を全て救うことができるように…」、という考えで定められたとされています。「これくらい大丈夫」「ふざけているだけだから…」と軽く考えずに、自分の言動が相手にどんな影響を与えるか、一度立ち止まって考える、そのための定義だと思っています。

熊本の地震、千葉の豪雨、世界に目を向けると紛争や戦争が続いている国もあります。「今、中学校生活を送れているのは、決してあたり前ではない」。だからこそ、野田中学校の皆さんには「いい顔」をして学校生活を送って欲しい。その時、自分だけが「いい顔」になるのではなく、自分の言動で相手がどう感じるか「想像する」力をつけていき、真の意味で「みんながいい顔」で過ごせる野田中学校にしていきたい。2学期も力を合わせて頑張っていきましょう。

～夏季休業中、教職員研修を行いました～

夏季休業中、生徒が「夏休みだからできること」にチャレンジしたように、野田中学校の教職員も研修を行いました。普通救命講習や学力向上のため、演習と講義を織り交ぜながら主体的で対話的に学びを深め、各自の資質向上に努めました。2学期からの教育活動も、「生徒の安全」「より良い野田中学校」のため尽力して参ります。

泉小・大塚小と合同で不審者対応訓練を実施↓

